

入ったことはないのだが、ここのサイトの説明と、ここに行った人のブログなど（例えば「中田英寿オフィシャルホームページ」の2006年3月9日の日記）を読んだ限り、おおよそ次のような内容だ。まずチケットを購入するとチョコレートバーがもらえて、それを齧りながら（1）カカオ豆の歴史、（2）カカオ豆がヨーロッパに伝来した経緯、（3）カドベリー社史、についての展示を見たのちに実際に工場チョコレートが作られているところを見学し、試食コーナーや記念撮影コーナーを経て過去半世紀にわたるカドベリーのテレビCMが見られるシネマに至る、ということらしい。ちなみに入場料は2007年12月現在で大人13ポンド、学生・老人10ポンド（本稿執筆時の換算値で約2350円）、子供9ポンド95ペンスである。東京ディズニーランドなどと比べれば確かに安い、単なる工場見学だと思えばかなり高い。年間パスポートもあり、これは大人33ポンド80ペンス（学割はないらしい）だから、三回（学生は四回）行けば元が取れる。またここにはカドベリー製品を特価販売する店舗やカフェなどもあり、ここまではチケットを買わなくても入ることが出来る。

カドベリーの製品と言えは1905年から製造・販売され続けている定番中の定番である「デアリー・ミルク」という板チョコが有名だが、これに干し葡萄とアーモンドが入った「フルーツ&ナッツ」の方を私はより好む。ダールの『少年』に記されているレプトン・スクール時代のエピソードに次のようなものがある。奇人の数学教師コーカーズ先生は「数学ほど退屈なものはない」と嘯いて、いつも授業中にクロスワードやゲームばかり教えていた。この先生はある日、一枚のティッシュペーパーを取り出して見せ、これを50回折りたたんだら厚さはどれくらいになるか、と問いかけた。生徒らは当てずっぽうに24インチ、5ヤードなどと答えたが、正解者は皆無だった。正解は「地球から月までの距離」とのことで、先生は珍しく黒板に数式を書いてそのことを証明したという。この時、正解者がもらえるはずだった賞品は、カドベリーのフルーツ&ナッツの巨大板チョコだった

らしい。

2007年夏のイギリスセミナーで、確かロンドンに到着して3日目だったと思うが、何人かの学生と駅前のスーパーに行ったときのこと、私は例によってフルーツ&ナッツを買おうとしていた。そのとき傍らには二人の女子学生がいたのだが、一人がデアリー・ミルクを買うべきかどうか逡巡していた。するともう一人が、「この会社のは全部おいしいから大丈夫」と断言した。英国に来て正味二日のうちに、すでに彼女は何種類かのカドベリー製品を食べていて、しかもそのすべてが美味だったということらしい。ちなみにこの時点で私はまだ彼女らに、カドベリー社をめぐる蘊蓄を一切語っていなかった。

ランニングホームラン

経営学部

田川 光照

今年の大リーグ・オールスター戦（7月11日）でのイチローの活躍はすごかったですね。なにしろ、3打数3安打、しかもその1本が78年の歴史をもつ大リーグの球宴で初めてのランニングホームラン、おまけに MVP まで取ってしまったのですから。

ところで、この「ランニングホームラン (running home run)」が和製英語だということを、皆さん、ご存知でしたか？ 恥ずかしながら、筆者は知りませんでした。オールスター戦の中継を見ていませんでしたので、結果を知るために、<http://sportsillustrated.cnn.com/> にアクセスしたところ、次のように書かれていたのです。

Ichiro had three hits, including the All-Star game's first inside-the-park home run.

(イチローが、オールスター戦初の inside-the-park home run を含む3本のヒットを放った：注1)

なんなんだ、“inside-the-park home run”で？と思ったわけです。アメリカの球場名には“field”（シアトル・マリナーズの本拠地は“Safco Field”）、“studium”（ニューヨーク・ヤンキーズの本拠地は“Yankee Studium”）、“park”（サンフランシスコ・ジャイアンツの本拠地は“AT & T Park”）などが用いられているので、“park”に「球場」の意味があることは知っていました。そこで、“inside-the-park home run”を直訳すると「球場内ホームラン」となります。仮に“outside-the-park home run”という表現があったとすれば、「球場外ホームラン」すなわち「場外ホームラン」ということになるのではないか。すると、「球場内ホームラン」は場外ホームランではない客席へのホームランを意味するのか？それじゃ、当たり前のホームランで球宴初のホームランというのは変だ。そう考えたわけです（あとで調べて分かったことですが、「場外ホームラン」は“out-of-the-park home run”と言うようです）。

結局は辞書で調べてみることにしました。そしてようやく、“inside-the-park home run”とは「ランニングホームラン」のことだと分かったのです。野球用語のカタカナ語は「デッドボール」「ナイター」「チェンジ」など、和製英語の宝庫ですが、「ランニングホームラン」もその一つだったのですね。上の推測の過程で、もう少し想像力を働かすべきだったのです。というのは、“park”を「球場」の意味で理解したところまではよいのですが、客席まで含めたイメージ（これが、少なくとも「球場」という日本語のイメージではないでしょうか）に捕らわれていたからです。“inside-the-park home run”の“park”は客席を含まず、野球をするフィールドのことかもしれないと考えればよ

かったでしょう（調べていませんが、もしかすると、大リーグの初期には外野の外に客席がなかったのかもしれませんが）。

あるいは、そうではなく、次のように考えるべきだったのかもしれませんが。それは“inside”には「内部」だけではなく「内側」の意味もあるということです。たとえば、車線や通路の「内側（“inside”）」と「外側（“outside”）」とか、ピッチャーがストライクゾーンの「内側（“inside”）」を突くとか「外側（“outside”）」を突くとか言うときの「内側」です。このような意味での「内側（“inside”）」と「外側（“outside”）」を球場に適用すれば、野球をするフィールドが「内側（“inside”）」であり、客席が「外側（“outside”）」であるということになるでしょう。そうであるなら、上で、仮に“outside-the-park home run”という表現があったとすれば、「場外ホームラン」の意味になるはずだと書きましたが、そうではなく客席へのホームランということになるでしょう。実際、「場外ホームラン」は“out-of-the-park home run”と言うのですから、そのように考えるのが正しかったのかもしれませんが。

ともかく、「ランニングホームラン」が和製英語であることを初めて知ったのですが、そのときにふと思ったのは、じゃ、韓国でもこの和製英語を使っているのだろうか、ということでした。というのは、韓国の野球用語はもっぱら日本語から入っているからです。そもそも「野球」という“baseball”の日本語訳そのものが、そのまま韓国語になっています（ただし、韓国語読みで야구〈ヤグ〉）。また、内野手는내야수〈ネーヤス〉、外野手는외야수〈ウェヤス〉、投手는투수〈トゥス〉、好投は호투〈ホートゥ〉、安打는안타〈アンタ〉満塁は만루〈マールル〉など、すべて日本語の韓国語読みです。

「ランニングホームラン」もそのまま韓国語に入っているとすれば、「러닝 홈런〈ロニングホームロン：注2〉」となるはずですが。実際には、どうでしょうか。次の文は、球宴の翌日7月12日の朝に、韓国のMBCテレビが放送したニュー

スのスクリプトの一部です (<http://www.imbc.com/>)。人名、外来語、それに漢字語にはカッコ内にカタカナと漢字を示しておきます。漢字語のうち野球用語で日本語の場合と一致するものは、日本語から入ったものとみなして差し支えありません。

5회 (回) 초 (初) 이치로 (イチロー) 가 등장 (登場) 했는데 잡아당긴 타구 (打球) 가 담장을 맞았거든요. 공이 틈새에 맞고 굴절 (屈折) 되면서 우익수 (右翼手) 그리피 (グリピー) 가 제때 처리 (処理) 를 못한 사이에 말빠른 이치로 (イチロー) 가 홈 (ホーム) 까지 들어오면서 역전 (逆転) 그라운드 (グラウンド) 홈런 (ホームロン) 을 만들었습니다.

(5回表、イチローが登場しましたが、引張った打球がフェンスに当たったんですよ。ボールがすき間に当たって方向が変わり、右翼手グリピーが処理にもたつく間に、足の速いイチローがホームまで入ってきて逆転グラウンドホームランをやったのけました)

韓国語では、「ランニングホームラン」ではなく「グラウンドホームラン」という韓製英語が使われていたのです。ただし、「ランニングホームラン」という言い方もされており、一般的にはこちらのほうが通用しているのかもしれませんが。というのは、たとえば、“empas 지식 (知識)” というサイト (<http://kdaq.empas.com/>)で、그라운드 홈런 (グラウンドホームラン) とは何かという質問に, 러닝홈런 (ランニングホームラン) を使って次のように回答されているからです。

그라운드홈런은 러닝홈런으로 그라운드 내에서 이루어진 홈런을 말하는 것입니다.

(グラウンドホームランは、ランニングホームランで、グラウンド内で達成されたホームランを言うのです)

また、「장내 홈런 (場内ホームラン)」という

言い方も、やはりイチローの「ランニングホームラン」を伝えるニュース記事で見かけました。これはまさに“inside-the-park home run”の直訳でしょう。しかし、「ランニングホームラン」や「グラウンドホームラン」よりも分かりにくいと思います。筆者が理解できなかった“inside-the-park home run”と同じことですから。

いずれにせよ、野球関係の和製英語は、「デッドボール」(英語では hit by pitch) = 「데드볼」、 「ホームイン」(英語では run in/come home) = 「홈인」、 「ナイスボール」(英語では good pitch) = 「나이스볼」、 「ナイトー」(英語では night game) = 「나이트어 <ナイトー>」など、ほとんどが韓国でも使われているようです。ただし、「ゴロ」を「땅볼 <タンボール>」(「땅 <タン>」は「地面」を意味する韓国語の固有語:注3)とるように、独自のものもあるようです。いろいろ調べてみるとおもしろいかもしれません。

(注1) 「イチローが3本のヒットを放った」は“Ichiro had three hits”という簡単な表現でよいですね。これは参考になるかも。

(注2) 韓国語では、run や cover などに含まれる「ア」の音は「ㄹ(オ)」、car などに含まれる「ア」の音は「ㅏ(ア)」、thank などに含まれる「ア」の音は「ㅑ(エ)」となります。ちなみに、Thank you は「뽕큐 <テンキュ>」と言います。余談ですが、あるユーモア小説に「뽕큐베리감사 <テンキュベリーカムサ>」というセリフが出てきました。これは Thank you very much. の“much”を「감사합니다. <カムサハムニダ>:ありがとうございます」の「감사 <カムサ>:感謝」で置き換えたもので、日本語にすれば、「サンキュー・ベリーありがとう」となります。

(注3) ついでですが、「ピーナッツ」のことを韓国語で「땅콩 <タンコン>」と言います。「콩 <コン>」は「豆」のことで(ちなみに「もやし」は「콩나물 <コンナムル>」)、落花生は地中でできる豆であることからきているのでしょう。